

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501293		
法人名	有限会社レモンの里		
事業所名	グループホーム・レモンの里		
所在地	三重県津市神納418-1		
自己評価作成日	26年1月13日	評価結果市町村提出日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&jisvosyoCd=2470501293-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 2 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『健康とオープン』を基本理念とした、自由で豊かな暮らしの実現。 終の棲家として、全員がホームで家族に見守られ、よい最期を迎えられた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

友人の一言で開設され10年たつ事業所で、敷地には果樹を植え収穫を利用者と楽しんでいる。大家族として健康的で何事もオープンとの理念のもと、利用者の残存能力を活かす工夫をされ利用者の健康につなげている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を『健康とオープン』に集約し、共有化とその実現を図っている。スタッフは、自分自身で考え、それをスタッフ同士で話し合いながら、ほとんどの事項は即断実行している。	理念は「健康とオープン」とシンプルではあるが、管理者と職員は様々な思いを日常生活の中で話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年6月より代表者が自治会長として活動。祭礼・行事なども活用して交流している。	自治会長として活動する事で地域住民からの信頼もあり、地域の一員として日常交流している。神社祭礼には事業所を休憩所に提供し、利用者とも交流してもらい、利用者の喜びにつなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	レモンの里交流コンサートを実施。地域の福祉団体や、奉仕グループの見学多数。各種研修の講師をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、活動記録写真やビデオで実際の活動を報告し、参加者の意見を聴取している。	利用者・家族・地域住民・行政・ボランティア・医療関係と色々な分野の方々が参加しており、リビングでの開催で利用者の参加につながる様な工夫をしている。家族の意見や利用者の外出支援での様子を報告し、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	三重短大等で講演・学生の見学・実習を受け入れ。県社協の職場体験受け入れ。県の行う研修会の講師。	学生の見学・現場実習生の受け入れ・現場体験、又、研修会の講師など協力体制は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無施錠としている。心のケアが大切であることを職員が自覚しており、身体拘束をしないで済むケアを実践。	施設・車椅子の拘束はもちろんのこと、心のケア・精神的拘束を理解している。職員は常に自問自答し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種資格取得・研修会で学習し、それを職員間で話し合い、虐待防止に努めている。職員の心の安定が虐待の防止の最善策。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度説明会・三重県福祉セミナーなどに参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には親族に集ってもらい、十分な説明をしている。 事前に本人が来園見学し、一緒に食事をし、本人の希望を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの事項を即決で運営に反映。家族旅行(横浜・沖縄・奈良・尾鷲・熊野・名古屋)などの場で家族の自由な意向を聞いている。	家族との信頼関係が良好であり、意見・要望から、家族の了解のもと、代表者・職員の同伴で利用者の思い出の場所への外出支援をしている。ホームでの生活の中では見る事の出来ない、利用者の目の輝き・凛とした立ち姿などが見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は通常殆んど全日ホームに居り、必要に応じ職員とミーティングを行っている。即決で意見を反映させている。	代表はほとんどホームで利用者・職員と共にあり、職員の意見・提案には即、対応している。また、ベテランの職員や経験の浅い職員が同等に話し合い、意見を交換できる関係づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年定期昇給。有給休暇の完全取得。昇格。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例の研究会や、管理者講習、三好春樹の連続講座など研修を実施している。他の介護施設と相互研修も取入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会の役員。 三重福祉連携ユニットメンバー。 他のホームと職員が相互訪問。 阿漕苑・フルハウス・渚園・とのむら等交流。 各種講習会講師として交流。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人の希望を入所前に聞き取り、個別対応している。(通所サービスも活用して、馴染みの関係を作っている)家族とも食事会などを通じ話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・本人の希望を徹底的に聞いている。 本人・ケアマネ・家族と事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時から、本人と家族の希望を叶えることを大切にし、話し合って実現している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者、また入居者同士での支え合いが当然のように行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等では家族も一緒に準備をする。 家族の面会では、一切の制約を加えていない。 食事一緒にしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・旧知の方々の来園など積極的に行っている。 面会は子・孫・ひ孫、その配偶者が来られる。	利用者の大切な馴染みの家族・親族の関係が途切れない様、面会時には食事をもっとしてもらおう誘いかけたり、居室に電話を設置し、利用者の安心につなげたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のそれぞれの人が自由に暮らしているので、暮らしに満足されている。そのため、利用者同士の会話が長く、散歩・外出・レクなどの時に互いに助け合う姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去5年で7名の方の葬儀をホーム内で執り行った。(手作りの家族葬) 毎年合同慰霊祭を行っている。家族の方は行事にはボランティアとして参画している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アクティブな行動で本人の希望を叶えている。(旅行・食事・コンサート等)	利用者ひとり一人に寄り添う支援の中で把握し、出来るだけ多くの会話をすることから希望や思いを表出している。本人が希望する生まれ育った海外へ行ったり、米寿の祝いに横浜まで行く目標を支援する等、楽しみ作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き取り、日常生活の中で把握している。家族との旅行や会話の中などで本人や家族が昔のことを思い出し、思いがけない経歴などを聞かせていただくことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由行動を原則としている。また、個人として個別に対応している。身体介護は必要最小限とし、個人の能力維持をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医師などの関係者と話しあっている。即時実行を原則としている。	介護計画は日常の生活の変化などをケアと考え、その時その時をプランに取り入れ作成、家族への説明もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、変化に即時対応している。介護記録は変化が良くわかるように記入方法を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	国内、海外旅行・家族との外出。本人の力の維持・誤嚥防止のために、普通食を続ける工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア多数。 神社・保育園・消防・リージョンプラザ・県文化会館・三重大学とも協力。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を入れて、内科・整形など複数の診療機関で受診。 職員（責任者）が受診に付き添って医師との連携をとっている。	かかりつけ医への受診には、代表者・職員が付き添って、受診結果を家族に報告している。また、かかりつけ医との関係を築きながら看取りへとつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を採用。昨年2名の看取りに貢献。 看護師は緊急対応できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も職員の長時間付添・24時間付添などをおこない、早期退院が出来た。 入院による認知症進行も防止した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去6年間で、当ホーム内で8名を看取った。 (他施設・病院へ行かずに・・・)	かかりつけ医・家族との協力で、平成25年には2名の看取りをしている。入院時は職員が付き添い、1日も早くホームへ戻れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で日常的に話し合い、訓練も行っている。職員の気づきで急変時早期回復が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急避難用にビニールハウスを設置。 避難場所・避難経路も確認している。 正職員4名が500メートル圏内に居住し、緊急対応体制をとっている。 近隣の協力も得られる。	避難場所・経路など確認し、緊急時の体制はできており、近隣住民の協力も得られている。また、ビニールハウスを一時避難場所とし、調理可能な木炭を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の介助とし、誘導時は小声で話しかける。 難聴の人も、小声で話しかけることで、職員の声を聴こうとし、コミュニケーションが向上している。	声かけ・言葉かけには、視線を合わせて話す等の注意を払っている。リビングで利用者が自由に読書したり、キーボードを弾いたり、利用者が自由な時を過ごせるような対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コンサート、墓参・法事など積極的に出席。 沖縄・旧満州・奈良・北京・ロンドン・名古屋・尾鷲等随時外出。(職員・家族・ボランティア同行) バリ島で孫の結婚式、横浜で米寿祝い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を定めていない。 散歩・外出・家族旅行・家族との個別外食・喫茶店・歌・手芸・草取り・ゴミ出しなど仕事や遊びを取り入れている。 来客の見送り・出迎えなども行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大多数が訪問理美容(サナエ美容室)を利用、2名がなじみの店に行っている。染髪・爪切りなども実施外出の機会を多くし、身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買出し、下ごしらえ、準備など。 上げ膳・下げ膳も出来る人は自分で運んでいる。調理する鮮魚・野菜・肉類をじかに見てもらい、食事意欲の喚起にもつなげている。	利用者のペースで、目で見ても楽しみになるようにしている。食材が何であるか判るよう工夫し、ボランティアの方からの鹿肉も代表者が利用者の前でさばき料理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	良質で食事意欲を高めるような食事作りをしている。(固いもの・生もの・串もの・自家栽培もの) 全員が箸を使って食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後洗面所へ誘導し、口腔ケアをしている。 毎週ポリデント。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のみポータブルトイレを2名使用しているが、特殊汚物袋を使用して、居室の便臭がなく、家族面会時にも快適になっている。日中は全員がトイレを使用、自立を図っている。	夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、日中は全員がトイレを使用している。布パンツやリハビリパンツで自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が精神状況の不穏や帰宅願望に繋がることを理解している。水分摂取を心がけ、魚・野菜・肉を豊富にした食事をしている。散歩や日光浴にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴とし、一人ひとりお湯を替えている。ゆったりと入浴を楽しんでいただいている。	入浴は個浴で家庭的な雰囲気であり、利用者ひとり一人新湯で、気持ち良く入れるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就眠時間・起床時間は自由。居室内温度は、その日によって外気温とすり合わせて調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と協力して減薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族旅行・家族との個別外食・喫茶店・買い物・ドライブ・歌・手芸・草取り・ゴミ出しなど仕事や遊びを取り入れている。来客の見送り・出迎えも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	無断外出・喫茶店・買い物・家族との外出・ボランティアとの外出・ガーデンの散策・帰宅・宿泊など多様に対処している。(海外旅行・祭礼・コンサート)	全員でコンサートに参加したり、代表者・職員・ボランティアの協力で、孫の結婚式・利用者の米寿のお祝いなど、思いの大切な場へ出かけている。利用者のホームでは見られない笑顔・行動が見られるよう、ひとり一人の希望に添った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、小額の金銭を持っている。これは特に職員が管理せず、必要に応じ補充している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話のある方2名。家族・友人に電話している。年賀状作成支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・観葉植物類が豊富。 天窓採光をしている。	玄関には黒電話・フィルムカメラなどが置かれ、回想に繋がる工夫がされている。また、キーボード・二胡・沖縄民族楽器などが置かれ、時折代表者・職員が思い出の曲を奏でる伴奏に合わせ利用者が口ずさんでいる。生花などが活けられ、落ち着いた感じがする共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にも、プライベートな空間を作り、落ち着いて過ごせる。他の人と離れて過ごせる場所がある。ガーデンにも自由に出入れる。ホールの机も距離感を持って配置している。プライベート空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6名が木製のベッドを使用している。 居室の全てが個性的になっている。 木製の家具を多用して施設らしくない居室づくりをしている。	住み慣れた我が家を思い出すよう利用者に合わせた、代表者自ら改造した木製のベッドを使用している。また、利用者の洋服などハンガー掛けて整理整頓され、落ち着いて過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関のスロープを廃し、上がり框の段差を設け感覚的に安定させた。結果、過去1年間玄関の転倒事故が無かった。 廊下も空間認識のしやすいレイアウトになっている。		